

我校は終始敵ゴールラインに迫りながら決め手がなく、又しても盛工に一点の差で敗る
○高体連（五月三十一日、六月一、二日）

於、黒工グラウンド

第一回戦宮古水産と対戦

本校 23 $\left\{ \begin{array}{l} 15 \\ 8 \\ 0 \end{array} \right\} 3$ 宮水

練習の甲斐あり、沿岸の強敵宮水を堂々と打ち破り第二回に進む。

第二回戦は、春の優勝校盛岡工業と対戦。

本校 0 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 0 \\ 1 \\ 8 \end{array} \right\} 11$ 盛工

我々戦手一同必勝を期して頑張つたが、敵重量FWを有する盛工に敗れた。又しても、あゝ、どうして勝てないか、いや遅う、重量及び鍛練だ。

ファイトに明けファイトに暮れた一年、我がラグビー部はいかに戦い、いかに勝つたかいざやたどらん戦の跡。

於、黄金ラグビー場

第一回戦盛岡農業と対戦

本校 6 $\left\{ \begin{array}{l} 6 \\ 0 \\ 1 \\ 3 \end{array} \right\} 3$ 盛農

全員良く頑張る、決勝戦に進む。決勝は宿敵盛岡工業と対戦する。

決勝戦

本校 10 $\left\{ \begin{array}{l} 5 \\ 5 \\ 1 \\ 8 \end{array} \right\} 11$ 盛工

かくて第十二回国民体育大会県予選兼県民体育大会を迎える。時八月十七、八、九日、場所は黄金ラグビー場。

第一回戦一関高校と対戦

本校 46 $\left\{ \begin{array}{l} 22 \\ 24 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{array} \right\} 0$ 関高

吾々の日頃の練磨は、県南の名門関高を46対0で軽く一蹴した。この試合で今来本校のあげた得点の最高を記録する。この日はウィナー穀藤のプヤード独走トライ、バックスのコンビ良く、FWのスクラムトライ、フォローとしてのトライ等あり楽勝して第二回戦に勝ち進む。

第二回戦盛岡工業と対戦

本校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 3 \\ 1 \\ 8 \end{array} \right\} 14$ 盛工

あゝ、無念、又もしてやられる。前半6対0とリードされ、後半奮起FWトライを上げたが、7分にトライされG成功、13分ペナルティをとられGきまつて3点を追加善戦空しく敗れる。

さて次の第三十八回全国ラグビー高校選手権大会岩手県予選は十月十九、二十、二十一日の三日間黄金ラグビー場で行われた。

第一回戦 不戦勝

第二回戦 盛岡一高と対戦

本校 26
1214
103
3 盛一高

対一高戦は今年初めてで選手一同元気良く対戦した。これも26-3で一蹴して決勝に進む。

決勝戦 盛岡工業と対戦

本校 0
0013
018 11 盛工

ああ何という不運だ。春以来幾度となく夢見たあの晴れの「大阪西の宮」大会も一片の煙と消え去る。

この日の黄金ラクビー場は、午前中降り続いた雨でコンディション不良のうえに、前半15分頃から又も降り出し、泥濘戦となつた。我校前半やゝ有利に試合を進めたが、21分力にまさる盛工FW我校を押し込んでトライG成功、21分我軍13ヤードスクラムより盛工へボールが出、ハーフ、スタンドへとボールが行き飛込んでトライ。後半にも8対0とリードされるに至り元気がなくなつていたが、盛工の得点チャンスをはばむ。我校押され気味ではあれ、得点チャンスは少なくなかつた。15分敵軍10ヤード附近ルーズスクラムよりFW沢口が敵を割つて独走、ドリブルノーマーク敵が沢口めがけて走る。14番が出た。25ヤード

通過、14番沢口を大きく引き離しボールを拾いキック、28ヤード附近で得点チャンスのがす。そのまま24分までシーソーゲームであつたが、我軍ゴール前、スクラム力にまさる盛工FWがホエルを見せ、スクラムトライされた。その後我が校にPK与えられたが得点ならずそのままノーマークとなつた。再三ゴール前に殺倒しながらノーマークに終つたのは、かえすがえすも残念であつた。

宿願を果さず卒業を迎えたが、我らの夢はいつの日か後輩諸君によつて果たされることを信じつつ我らは去つてゆく。母校よ、部よ健やかなれ。

今年度の陣容

監督 戸嶋 正 夫

主 將 田 村 光 一

FW 松館健五 ③ HB 江刺 博 ③

藤沢喜蔵 ① TB 穀蔵准式 ②

箱石伍郎 ③ 鍋倉新吉 ③

中村卓郎 ② 佐々木忠雄 ②

田村光一 ③ 神谷二千六 ②

鷹嘴 章 ① 高橋 久 ③

阿部久知 ③ 東 司 ③

沢口芳男 ③ 千代川泰久 ③

HB 高田一明 ③ 鈴木輝紀 ①